

[成果情報名] 小型で良食味のスイートコーン「ピクニックコーン」の品種特性

[要約] 小型で良食味のスイートコーン「ピクニックコーン」は、穂重 300g 程度で甘味が強く食味が優れた品種であり、栽植株数の 50% 程度で販売可能な穂が 1 株から 2 穂収穫でき、一般的な大きさのスイートコーンと同等以上の収量が確保できる。

[キーワード] スイートコーン、ピクニックコーン、小型

[担当] 山梨総農セ・栽培部・野菜科

[連絡先] 電話 0551-28-2496、電子メール sounou-gjt@pref.yamanashi.lg.jp

[区分] 関東東海北陸農業・野菜

[分類] 技術・普及

[背景・ねらい]

従来の野菜より小型である“ミニ野菜”は、消費者の少量多品目消費の傾向や、食味の良さなどといった特徴から注目されている。

本県の主力野菜であるスイートコーンにも、小型品種「ピクニックコーン」があるが、品種特性などは十分明らかになっていないため、これらを明らかにし直売所の品揃え充実の一助とする。

[成果の内容・特徴]

- 1．穂重は 300g、むき実の穂長が 15cm 程度で、一般的なスイートコーンの 75% 程度の大きさである(表 1)。
- 2．子実色は黄色で、先端不稔などの発生は少なく外観品質に優れている(表 1)。
- 3．収穫期は「味来 390」と同等である(表 1)。
- 4．草丈は 180～200cm 程度でやや高い(表 1)。
- 5．甘味が強く、食味が非常に良好な品種である(表 2)。
- 6．収量性は、栽植株数の 50% 程度で 200g 以上の穂が 1 株から 2 穂収穫でき(表 1)、「味来 390」と比較して重量で同等、穂数で 1.5 倍程度の収穫が可能である(表 3)。

[成果の活用面・留意点]

- 1．直売所での販売などを中心に、県下全域のハウス、トンネル、露地栽培すべての作型で栽培できる。
- 2．留意点
  - (1) 肥料による発芽障害を避けるため、基肥は窒素成分施用量として 15kg/10a 程度とする。
  - (2) 草丈がやや高く耐倒伏性が劣るため、施肥指導基準に沿った適正施肥に努める。
  - (3) 本試験結果は、栽植密度 4938 株/10a (うね幅 150cm、株間 27cm、2 条植え) の場合であり、栽植密度を高めれば第 2 穂が収穫できる株の割合は減少する。

[具体的データ]

表1 「ピクニックコーン」の品種特性(2005年)

作型	品種名	草丈 (cm)	可販率 <sup>z)</sup>		穂重 (g)	穂長 <sup>y)</sup> (cm)	先端 不穂長 (cm)	収穫期
			(%)	(%)				
トンネル	ピクニックコーン	175	第1穂	100	309	15.1	0.6	6月14日
			第2穂	65	260	13.0	0.6	6月17日
	味来390	177	-	408	19.0	1.4	6月13日	
露地	ピクニックコーン	197	第1穂	100	285	15.2	0.5	7月8日
			第2穂	42	245	14.9	0.8	7月10日
	味来390	187	-	386	20.1	0.4	7月8日	

z) 200g以上の穂の割合

y) むき実の穂長

表2 「ピクニックコーン」の品質特性(2005年トンネル栽培)

品種名	甘味度 <sup>z)</sup>	食味評価 <sup>y)</sup>	
		甘味	総合
ピクニックコーン	11.0	3.9	3.6
味来390	9.8	3.0	3.0
甘々娘	10.9	-	-

z) 甘味度 = フルクトース含量(mg/100g)×1.2 + リブチトル含量(mg/100g)×0.6 + グルコース含量(mg/100g)×0.6 + ストラス含量(mg/100g)

y) 20名が、ゆでたものを「味来390」を対照として、甘味、総合の2点について5段階(1:劣る 2:やや劣る 3:同等 4:やや優れる 5:優れる)で評価

表3 「ピクニックコーン」の収量性(2005年)

作型	品種名	第1穂		第2穂		合計	
		収量 <sup>z)</sup> (kg/10a)	穂数 (穂/10a)	収量 <sup>y)</sup> (kg/10a)	穂数 <sup>x)</sup> (穂/10a)	収量 (kg/10a)	穂数 (穂/10a)
トンネル	ピクニックコーン	1,526	4,938	835	3,210	2,360	8,148
	味来390	2,015	4,938	-	-	2,015	4,938
露地	ピクニックコーン	1,407	4,938	508	2,074	1,915	7,012
	味来390	1,906	4,938	-	-	1,906	4,938

z) 第1穂平均穂重(kg) × 4938 (株/10a)

y) 第2穂平均穂重(kg) × 4938 (株/10a) × 可販率

x) 4938 (株/10a) × 可販率

(耕種概要) 播種日: トンネル: 2005年3月7日 露地: 2005年4月15日  
 施肥量(作型共通): N - P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> - K<sub>2</sub>O = 25 - 22 - 22 kg/10a、  
 苦土石灰 100 kg/a、FTE 4 kg/10a、堆肥 2,000 kg/10a  
 栽植様式: うね幅 150cm 株間 27cm 2条植え(4938株/10a)

[その他]

研究課題名: 直売向け野菜における品種特性の把握と生産技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 2005~2006年度

研究担当者: 對木啓介、竹丘守、五味亜矢子、千野正章、宮川芳樹